



Title	2018年度 意匠学会論文賞選考結果報告
Author(s)	面矢, 慎介
Citation	デザイン理論. 2019, 74, p. 4-4
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/75313">https://doi.org/10.18910/75313</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 2018 年度 意匠学会論文賞選考結果報告

2018 年度学会賞選考委員会  
委員長 面矢慎介

### 受賞論文

竹内有子氏

「クリストファー・ドレッサーの装飾デザインにみる色彩論の展開」

### 受賞理由

竹内氏の受賞論文「クリストファー・ドレッサーの装飾デザインにみる色彩論の展開」は、テーマをドレッサーの色彩論『装飾デザインの原理 (Principles of Decorative Design)』(1873 年) および『デザイン研究 (Studies in Design)』(1874 年) に絞り、同時代のレドグレイブ、ジョーンズらの色彩論・装飾論との関係を詳細に論じている。さらに、その色彩論の内容を反映する作例として、ナショナル・アーカイブで開示されているファブリックおよび壁紙の資料約 100 点を実見し、彼の色彩調和論の実作への適用について検討を加えている。

竹内氏は、これまで一般的なデザイン史記述の中では消極的にとらえられがちであった 1800 年代後半の歴史主義時代の装飾デザインの問題を積極的に取り上げ、ドレッサーの色彩論の展開の意義が「総合性」への志向にあったと結論している。この論文の知見は今後、英国にとどまらず広くヨーロッパにおけるデザイン全般の歴史研究にも示唆を与えると期待される。

本論文は、学術的な問いの的確さ、結論に至る論理構成、適切な資料分析、結論の明晰さと今後の研究への広がりなど、どの観点からも高く評価される好論文であり、意匠学会論文賞として顕彰するに価する。

### 選考経緯

本論文賞は『デザイン理論』72 号、73 号掲載の「学術論文」10 編を対象とした。本年度選考委員は天貝義教、末包伸吾、吉田雅子、並木誠士の各氏と面矢慎介である。

選考方法は昨年度までと同様で、各委員がそれぞれ上位 5 編の論文を選び、1 位から 5 位までを順位付けし、これを 1 位 5 点、2 位 4 点、3 位 3 点、4 位 2 点、5 位 1 点と点数化し集計した。その結果、竹内論文が最高点となり、各委員の順位付けも高かった。このため、授賞候補として 2019 年 5 月の第 1 回役員会に報告し承認を得た。